

年頭所感

東

平

自頃元氣な、にこやかな子供を相手としてゐる私どもの頭に先づ浮ぶは子供に關してのこことある。

以前は子供は親の所有物である、妻も亦夫の所有物である。云ふやうな考へ方をしてをつた者も相當見受けられたが段々考へ方が進んで来て、假今小さい子供であつても人間である以上決して物ではない一つの侵すべからざる人格を奪つてゐる云ふ考へになつて來たのは誠に喜ばしいことである。

子供が田畠や什器などと異つて決して物でない、従つて所外でない云ふ考へ方に正しさは明瞭であるが、これを支配する指圖する云ふことをついても充分の考慮を拂はねばならぬと思ふ。子供は親の子に違ひはないけれども人として此の世に生れ出た以上親に孝を盡すと共に國家社會人類に貢献すべき崇厳な使命を將來に擔つてゐる尊貴そのものである。

子供を指圖する場合は親に支配があるとか、自土だからとかの考へから唯慢然と與へるのはよろしくないと思ふ。まして自分の激情や行きがりからの指圖は尊貴な子供を冒瀆するものであつて慎まねばならぬことである、子供を素直に身体も心も健かに育て上げることは親の利益の爲でなくして寧ろ子供の利益の爲めであり、親が國家社會人類への義務である。所謂義務教育の義務は子に對して云ふより絞上の意味に解したい。

今日の文化が個人主義に根柢

を置いてゐるから権利だとか義務だとかを兎角振廻すこそが流行してゐるが、これは我が國古來の良俗に反する點を多分に含んでゐるやうに考へられる。親子の間柄へなど権利義務の關係を持ち込むのは大禁物である。権利は利益であり、義務は負擔であるといふ解釋で親子間を律するのは誠によくない、吾々が子供を持つてゐる以上これを育てるにあたつてすべての點に於て親まさりのものとしたいと願ふ親心の眞情はそこにある、子供を育てるが爲めには物質上、精神上莫大な苦痛を感じるが、この苦痛は親の決して來たのは誠に喜ばしいことである。

子供が田畠や什器などと異つて決して物でない、従つて所外でない云ふ考へ方に正しさは明瞭であるが、これを支配する指圖する云ふことをついても充分の考慮を拂はねばならぬと思ふ。子供は親の子に違ひはないけれども人として此の世に生れ出た以上親に孝を盡すと共に國家社會人類に貢献すべき崇厳な使命を將來に擔つてゐる尊貴そのものである。

子供を指圖する場合は親に支配があるとか、自土だからとかの考へから唯慢然と與へるのはよろしくないと思ふ。まして自分の激情や行きがりからの指圖は尊貴な子供を冒瀆するものであつて慎まねばならぬことである、子供を素直に身体も心も健かに育て上げることは親の利益の爲でなくして寧ろ子供の利益の爲めであり、親が國家社會人類への義務である。所謂義務教育の義務は子に對して云ふより絞上の意味に解したい。

今日の文化が個人主義に根柢

を置いてゐるから権利だとか義務だとかを兎角振廻すこそが流行してゐるが、これは我が國古來の良俗に反する點を多分に含んでゐるやうに考へられる。親子の間柄へなど権利義務の關係を持ち込むのは大禁物である。権利は利益であり、義務は負擔であるといふ解釋で親子間を律するのは誠によくない、吾々が子供を持つてゐる以上これを育てるにあたつてすべての點に於て親まさりのものとしたいと願ふ親心の眞情はそこにある、子供を育てるが爲めには物質上、精神上莫大な苦痛を感じるが、この苦痛は親の決して來たのは誠に喜ばしいことである。